

報道関係者 各位

2016年10月21日  
東京農工大学

## 東京農工大学共同研究シーズ説明会 2016 「獣医系・生命工学系」を開催

東京農工大学では、大学が有するシーズと企業のニーズのマッチングを目的として、科学博物館（所在地：東京都小金井市）において、「共同研究シーズ説明会 2016」（ショートプレゼンテーション・シーズ 21 件）を開催いたします。これは、昨年度まで開催していた「科学技術展」に代わる新しい企業向けのイベントです。

第2回目となる今回の共同研究シーズ説明会では、獣医系と生命工学系にスポットライトをあてて説明会を開催いたします。最先端の研究シーズを学内の研究者が説明します。対象は企業関係者で、実施企業／共同研究のパートナーを広く募集します。

また、個別面談ブースを設置し、個別のご質問・ご相談にも対応いたします。



### 【プログラム】

- 13:30 開会挨拶 瀨藤 明伯（理事（学術・研究担当）・副学長）
- 13:35 参加研究室による  
ショートプレゼンテーション
- 15:00 ポスター発表（シーズ21件、裏面参照）  
個別相談ブースあり
- 17:30 終了

### ◆開催概要◆

【開催日時】2016年11月4日（金）13:30～17:30

【場所】東京農工大学科学博物館 3階講堂及び1階展示室

住所：東京都小金井市中町 2-24-16

<http://web.tuat.ac.jp/~museum/information/guide.html>

アクセス：JR中央線東小金井駅より徒歩8分

【参加費】無料

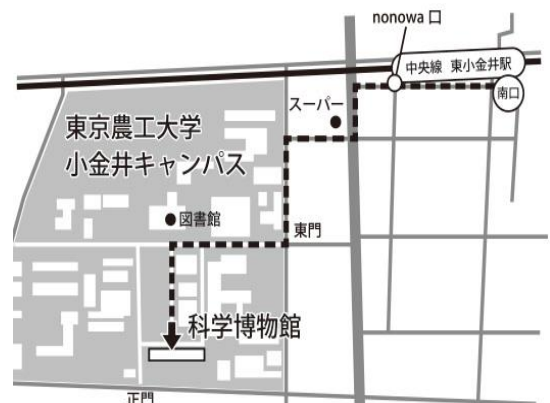
参加ご希望の方は、以下のサイトから登録をお願いします。

<http://www.rd.tuat.ac.jp/NEWS/event/20161104.html>

### ◆本件に関する問い合わせ◆

東京農工大学研究推進部研究支援課

E-mail: [tkagiten@cc.tuat.ac.jp](mailto:tkagiten@cc.tuat.ac.jp)



【ポスター発表一覧（シーズ 21 件予定）】

共同獣医学科

	氏名	発表題目(シーズ名)
V1	古谷 哲也	ネコの慢性腎炎の原因となりうるネコモルビリウイルス感染症について
V2	西藤 公司	皮膚バリア機能欠損動物モデルを利用した各種外用薬の有効性評価
V3	金田 正弘	エピジェネティクス薬剤による抗癌作用の検証
V4	竹原 一明	マイクロナノバブルオゾン水による食の安全性確保の研究
V5	吉田 敏則	病態モデル動物を用いた薬物の安全性評価および新規分子機構の解明
V6	永岡謙太郎	抗菌性を示す母乳中アミノ酸代謝酵素の腸内細菌叢へ与える影響
V7	佐々木 一昭	超音波による薬剤の取り込み促進に関する研究
V8	渡辺 元	内分泌環境の測定による生体恒常性維持機構の破綻に関する研究
V9	渋谷 淳	ラット、マウスを用いた各種のin vivo疾患モデルに対する分子病理学的な有効性評価研究

生命工学科

	氏名	発表題目(シーズ名)
L 1	中村 暢文	アンペロメトリックバイオセンサのための酵素電極作製技術
L 2	池袋 一典	バイオセンシング素子としてのアプタマーの有用性
L 3	長澤 和夫	低分子化合物を用いたDNA非二重鎖構造の安定化を基盤とする創薬技術
L 4	稲田 全規	バイオイメージングを活用した転移性癌の創薬評価技術
L 5	太田 善浩	酸化ストレス抑制の標的としてのミトコンドリア機能測定技術
L 6	黒田 裕	VanXの溶菌効果を用いた新規スクリーニング法の開発ーガウシア・ルシフェラーゼへの応用
L 7	櫻井 香里	抗癌活性サポニンOSW-1の作用機序解明に向けた標的タンパク質探索
L 8	吉野 知子	Microcavity array技術に基づく単一細胞の核酸解析技術の開発
L 9	浅野 竜太郎	人工抗体に基づく次世代型タンパク質製剤の開発とバイオセンサへの展開
L 10	川野 竜司	人工細胞膜を用いた膜タンパク研究とバイオセンサへの応用
L 11	篠原 恭介	ノックアウトマウス・電子顕微鏡・タンパク質工学を用いた原発性纖毛運動不全症(PCD)の発症メカニズムの解明
L 12	中澤 靖元	シルクフィブロインの高機能化とメディカルデバイスへの応用技術